

第1回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成22年5月21日 14:00～

○開催場所：三珠健康管理センター

○司会

それでは知事が到着いたしましたので、早速、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まずはじめに、横内知事からあいさつをさせていただきます。

○知事

皆さん、こんにちは。

皆さん、それぞれお忙しいのに、今日はこの県政ひざづめ談議にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

この県政ひざづめ談議というのは、いろいろな分野で活躍をしておられる皆さん方に、ざっくばらんに県の行政について、いろいろなご意見を聞かせていただくというものでございます。

したがって、今お考えになっていることを、何でも結構ですから、率直にお聞かせをいただければありがたいと思います。

今日は、この市川三郷町で子育ての問題にかかわっておられる皆さん方に、お集まりをいただきました。

ほとんどの方々が、まだ子育てをしておられる、お互いにいろいろな意見の交換をしたりしながら、それぞれ頑張っておられる方々、あるいはもう子育てはある程度、卒業されて、むしろその子育てをしているお母さん方を助けておられる方々もおられるかもしれませんが、日頃考えていることについて、ぜひお聞かせをいただきたいと思います。

子育ての問題は県政にとっても本当に大事な課題でありますので、皆さんのご意見を参考にして、県と、そして市川三郷町が一緒になって、子育てをするお母さん方が、より良い子どもを育てることができる環境をつくっていきたく思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

そんなことで、ざっくばらんにいろいろなご意見を聞かせていただきたいと思います。

どうぞ、よろしく願いいたします。

○司会

それでは続きまして、本日、同席をしております、県と町の担当者を紹介させていただきます。

県で子育て支援などを担当しております、横森児童家庭課長です。

○児童家庭課長

横森です。よろしく願いいたします。

○司会

町で同じく子育て支援などを担当しております、一瀬いきいき健康課長です。

○いきいき健康課長

一瀬です。よろしくお願いいたします。

○司会

それでは早速始めさせていただきます。

○知事

ここは市川三郷町の子育て支援センターなんですか。

○参加者

健康管理センターです。

○知事

ここでお母さん方が集まるんですか。

○参加者

乳児健診で集まります。

○知事

皆さん方、いろいろなサークルに属しているんですけれども、大体どういうところで、普段集まるんですか。

ファミリーサポートセンターですか。

○参加者

ファミリーサポートセンターもあります。

あとは、各地区に子育て支援センターというものがありますので、そちらのほうへ個々で集まっています。

○知事

そうですか。

奥さんはまだ子育て中ですか。

○参加者

いいえ、もうだいぶ前に終わりました。

○知事

ご苦労さまでしたね。

では、今は何をしているんですか。

○参加者

今は市川三郷町のファミリーサポートセンターにいます。

○知事

なるほど、そうなんですね。

市川三郷町のファミリーサポートセンターは活発に活動をしているんでしょうか。

○参加者

もう今年の7月で丸2年経ちまして、3年目に入りました。昨年度は388件ぐらい、利用がありました。

○知事

預けるほうの会員さんと、それを預かる会員さん、大体一緒の数だけ預かるほうの会員さんは集まっておられるわけですか。

○参加者

そうですね。預かるほうの会員さんが87名、預かってほしいという会員さんが58名ぐらいいます。

○知事

そうなんですか。

ファミリーサポートセンターは、皆さん方もお使いになりますか。

あまり使わないですか。あまり必要ない。

○参加者

実家のほうに預けたりするので。

○知事

実家へね。それはそうですね。実家にお母さんがいればね、それは一番安心ですね。親も喜ぶしね。

まあ、皆さんはいろいろなサークルに属して、子育ての情報交換をやったりしておられるからいいんですが、調べてみると割と引っ込み思案な人は、今、子どもが少ないですから、1人か2人の子どもを育てていて、あまりこういうサークルへ出てくることをしないで、自分の家の中にこもって子育てをしているとか、そういう方々がやっぱりちょっと心配なんですよ。

○参加者

結構、サークルとかあるので、知らないお母さんたちが結構多いんですよ。もっと宣伝したいというか。

○知事

それは乳児健診のときなんかには、結構こういうものがありますよと言うでしょう。

○参加者

できればそういうときに、サークルの代表者が行って、私たちはこういう活動をしていますとか宣伝できるスペースか何かをつくっていただくと宣伝しやすいし、ちょうど子育てをしているお母さんたちが集まるといったら、やっぱり乳児健診しかないの。

○知事

乳児健診だけはみんな出てくるでしょうからね。そういうときにPRしているんじゃないですか。

○参加者

しています。そのときの通知などに載せさせていただいているんですけど、たぶん、それだけだと行きづらいというか・・・。

でも、その場でそのサークルの人たちがいれば、こんな明るい人がいるんだみたいな感じで行きやすいんじゃないかと。

○知事

そうですね。やっぱりお互いに話し合い、いろいろ情報交換するとずいぶん参考になることがあるでしょう。

それからもう1つ、県にも子育てネットというホームページがあるんですよね。あれがもうちょっと使いやすく、それからブログみたいなことができるようにしたほうがいいんじゃないかという話があって、直したりしているんですけども、子育てネットというものは見ますか。インターネットは普段からやっていらっしやるんでしょう。

○参加者

まだ小さい子がいるので、なかなかそういう時間が取れなくて、早く寝かせて一緒に寝るといった感じですかね。

○知事

疲れていますからね。何人子どもはいるんですか。

○参加者

2人いるんですけども。

○知事

じゃあ、もう手いっぱいですね。

○参加者

バタバタして1日終わるといった感じです。

○知事

そうですか、大変ですね。

○参加者

私は孫育て真っ最中でして、今日も朝、母親から預かった子どもを幼稚園に連れて行って、今日ここに来させていただいているんですが、孫の迎えの時間がとっても気になっていたんですが、幼稚園のほうからぜひ勉強してきてくださいと言われてまして、やはりそういう面ではサポートさせていただいているなど、とてもありがたく思ったりしています。

もう1つは、娘がつい最近、越してきたんですけども、中学3年まで医療費が無料化になって、とても助かると言っていました。以前、娘たちが住んでいた市では小学6年生までで、市町村によって格差があるらしいんですが、小学校の低学年までだったりとか、そういうことも含めると、やはり格差があるというのは、いかななものかなと思いました。

○知事

それはそうですね。

ですけども、やっぱり各市町村ごとに財政事情がありまして、割と豊かなところと、そうでもないところもあったりするものだから、どうしてもばらつきがあつてね。

○参加者

そうなんですけども、市川三郷町はそんなに豊かではないと思っているんですが、やはり子どもに力を入れてくださって……。

○知事

町長さんの方針もありますよね。

○参加者

若い人たちを呼び込むというか、子どもさんたちを多くというところも含めて少子化対策にもなっているんじゃないかと思うので・・

自分で子育てを振り返りながら、娘たちの子育てを見てみると、大変充実しているなと思っています。

○知事

なるほどね。

窓口無料化ということも、できるだけやればいんですけれども、きりがないところがありましてね。一種のサービス競争みたいなことになるところがありまして、なかなか難しいんですね。

大体、どこの市町村でも小学校6年生ぐらいまででしょうか。中学3年生というのは、そう多くはないですよ。

子ども手当が入りますから、小学校6年生ぐらいまでで勘弁してもらって・・

窓口無料化というのは、これは県と市町村でやっているんですけれども、乳幼児だけではなくて、重い身体障害者の方々とか、母子家庭とか、そういう方々の子どもさんたちを対象にしているんですが、すごくお金がかかるので、ちょっと大変なんですよ。

しかし、そういう中で必要なものですから、一生懸命やっているということですね。

○参加者

市川三郷町ではヒブワクチン予防接種費用の助成や子宮頸がんの予防ワクチンの公費助成とか、とてもありがたいんですけれども、町内に小児科の専門医というところが1軒もないんですよ。どうしても近隣の市町村の小児科にかかるようなお母さんが、たぶんおられると思うんですが、ぜひ市川三郷町に誘致をしていただきたいなと思うんですが。

○知事

専門医がないですか。もっともここは山梨大学の医学部も近いし・・

○参加者

この間も初めて行ったんですけれども、鵜沢病院だったり、中央市の小児科という形で・・ 町内だとどうしても内科についている小児科という形になってしまうので、ちょっとそれだと心細いかなというところがある。

○知事

医療問題というのは重要な問題でして、今、盛んに議論を始めているんですけれども、この市川三郷町を含む峡南地域の北部と富士川町を含めて、どうするかと。

今はお医者さんが少ないものだから、それぞれの町村の公立病院を全部成り立たせるということは難しいんですよ。だから、今考えているのは、鵜沢病院と市川三郷病院を一本にして、お医者さんを厳選して、そこで質の高い医療をしようとしているんですね。

小児科もどういうことになるか、まだ決まっていませんけれども、市川三郷町内になくても、この近くに鵜沢病院だとか、あるいは中央市でもいいんですが、

いいお医者さんがいれば、それで勘弁してもらいたい。

○参加者

この間も鰹沢病院に行ったんですが、患者が殺到してしまっていて、もう待ち時間が果てしなく長いんですね。受付をしてから診てもらうまでに、やっぱり1時間以上待ったりするので、そのへんを考えると、やっぱり子どもの具合が悪くて行っているの、できれば個人病院で小児科があれば・・・

○知事

個人病院のほうが、気楽ですよ。

山梨大学医学部附属病院は、お医者さんはいいかもしれないけれども、ちょっと行きにくいですよ、確かに。

本当にお医者さん不足で、しかしお医者さん不足も5年、10年すれば良くなるんですよ。今、盛んにお医者さんの養成というのは、すごくやっておりますから、山梨県でもどんどん若いお医者さんが出てきますから・・・そういう中でも産婦人科・小児科・外科が足りない。一生懸命、山梨大学の医学部で養成していますから。

子どもさんは今、何人ですか。

○参加者

私は1人です。市川三郷町はすごく医療の面で町長さんが力を入れてくださっていて、子育てがすごくしやすいんですが、やっぱり子どもがすごく少なくて、たぶん年間100名産まれてくるということなんですけれども、やっぱりこれは群れて遊ぶこととか、近所に子どもがいないというような、安全面でもちょっと不安もあるし、子どもの成長の上でも、たぶん町としても、もっと魅力をアピールしていかないと、なかなか外から人って来ないと思うし、市川で育った人もちょっと仕事がないとか、やりたいことができないからといって外へ出ていく方が、とても多いみたいなので、子育てって雇用とかにもつながってくるんじゃないかなというように、子どもを持って、すごく感じています。

○知事

私たちが子どもの頃というものは、子どもが多すぎるくらい多くてね、もう兄弟は多いし、隣近所は子どもだらけだし、だから群れ遊びというのをやって、ちゃんばらごっこだとか、メンコだとか、ビー玉だとかをやって、子どもたちだけで、わいわいやっているうちに、自然にやっいいことと悪いことって覚えるんですよ。

女の子をひっぱたいて泣かせると、やっぱりかわいそうだと思うから、自然にそういうことをしていけないと。やっいいことと、やっはいけないことが、自然に分かるんですよ。

あとは隣近所におじさんなり、お婆さんがいたり、おじいさん、おばあさんがいたりして、悪いことをすれば叱られたり、そうやって子どもが自然に育っていったものなんですけれども、今は本当に子どもの数が少なくて・・・

増やすといっても、それは若い女性の皆さんに子どもをもっとたくさん産んでいただくような環境をつくっていかねばいけませんけれども・・・ただ、日

本は人口が減ってきますからね。

今でも毎年、鳥取県が1つなくなるぐらい人口が減っているわけですから、そのうちにたぶん今、鳥取県というのは人口60万人位ですから、60万人減ったら、あと10年もすれば、今度は山梨県が1つなくなるぐらい、人口が減ってくるわけですね。

そういう中ですので、なかなか子どもが大勢ワッと集まって、賑やかにというのは、なかなか難しいですね。もちろん大きなマンションでもできれば、その地域は別ですが・

市川三郷町にどんどん人が来て、特に若いご夫婦が来て住むようになって、子どもがたくさん群れるようになればいいんですけども、なかなか簡単にはいかないかもしれませんね。

その前に産まれるお子さんをぜひ大事にして、育てて行って・

周産期死亡率というものがあまして、死産で産まれる割合、それから子どもが産まれて、新生児が死ぬ、その死亡率が山梨県は非常に低い・だから結構安全な出産というか分娩はできていますね。というのは、これはやっぱり山梨大学の医学部や県立中央病院が一生懸命やっていて、ちょっと危険な出産というようなことがあれば、すぐに救急車で連れてきちっとやっているということなんです。

しかし、それにしても体は大事にしてください。

今一番大変なのは何ですか。やっぱり子どもの夜泣きですか。

○参加者

2人いるんですけども、そうでもなく・

○知事

やっぱり1週間に1回か2回は、子育て支援センターとか、そういうところに来て、いろいろと。

○参加者

そうですね。3回ぐらいは。

○知事

何というところに行く。

○参加者

私は「なかよしキッズ」に行かせてもらっているんですが。

○知事

六郷町ですか。

○参加者

はい。

○知事

大勢集まりますか。

○参加者

今は5組ぐらいですか。幼稚園に上がった子と引っ越された子たちが多くて。

○知事

だんだん少なくなってね。

○参加者

少ないですね。

○知事

大体同じぐらいの年の方が一緒にサークルをつくって、だんだん子供が大きくなって、少なくなってくるんですよね、きっとね。

○参加者

寂しいですね。

○知事

そうですね。

皆さんは仕事を持っておられるわけではないですね。専業主婦ですね。

仕事を持っていると0歳児保育とか何とかといって預けたりできるわけですよね。やはり仕事を持っておられないと・・・幼稚園は今3歳からでしたか。

それまでがちょっと大変ですよ。

○参加者

そうですね。

○知事

では、あまり困ったこともないと。

○参加者

お母さんたちにいろいろ相談とかして、そこでストレスを発散しているような感じで、私は行けない日は結構モヤモヤしたりとかしています。

○知事

だけど、皆さんのように子育てに参加できるサークルがあるといいけれども、そういうところへ出ない人が多いでしょうね、きっと。

○参加者

やっぱり行きづらいということがあるかもしれないですね。私も前は違うところに住んでいたんですが、そこでやっぱり遊びに行ったときは、もうお母さんたちがグループをつくってしまっていて、なかなか入りづらくてというところがありました。

○知事

相性が悪い人がいるからね。女性のサークルは難しいですよ。

どちらのサークルですか。

○参加者

「トトロの会」です。

乳幼児さんから、保育園、小学校まで、定期で行ってます。

○知事

そうなんですか。

定期的に何週目の何曜日に来てくださると幼稚園・保育園から頼まれるのですか。

○参加者

はい。

○知事

そうですか。

○参加者

未就学園児さんへの読み聞かせも参加させてもらっています。そこがとっても大事だと思うんです。

○知事

未就学園児、では0、1、2歳。

○参加者

そうなんです。

実際の絵本も、「0・1・2」という絵本があるんです。

○知事

ありますか。

○参加者

あります、あります。効果があります。実際にあります。

○知事

絵本を読むのを聞いているとね、国語が将来できるようになるかな。

○参加者

いろんな雰囲気の子育てをする中で、絵本を中心に置いていただきたいという強い希望をいつも持っております。

○知事

そうですね。

○参加者

月に1回図書館のお話し会というものがあまして、そこに参加しているんですけども、うちの息子や娘を7カ月か半年ぐらいから、連れて行っているんですが、内容がわからなくても読んでくれている人の顔を見たり、絵本をめくったり、何につながっていくのかなという感じがします。

絵本をめくるだけでも楽しめるようになっていったので、わからないから連れて行かないのではなくて、できるかもしれないと思って、連れていくことは大事だなと思いました。

○知事

産まれて7カ月ぐらいの子どもでもそうなんですか。

○参加者

何にも興味を示さないかなと思っていましたけれども、違うんです。例えば明るい内容だったら、笑ってみたりとか、その子によって、たぶん違うと思いますが、何かしら楽しめているんだろうなど。

○参加者

私は首がすわったら、もう絵本の読み聞かせをしてほしいと思っています。だから、3・4カ月でしょうね。

○参加者

せっかくいいことをやったださっているのに人が集まらないんです。

○知事

人が集まらない。

○参加者

市川の図書館は、町民体育館の中にあるんですけれども、とても場所が狭くて、本棚の間隔も人と人とのすれ違いができないぐらい狭い間隔であって、大量の本がダンボールに置かれて、通路においてある状態なんですね。だから子どもを連れて安心して本を選べたりできる場所ではないんですけれども、やっぱり場所がちゃんとしていないと、安心して連れて行くことができなくて、やっぱり中央市とか近隣の図書館に行ってしまう形になるので、立派などはないわなくても、行きやすい図書館にしてほしい。

○知事

広ければいいですからね。狭くてはねえ。

○参加者

地震があると、ちょっと危ないかなと。

○知事

市川三郷の町長も、おいおい、立派なものをつくるでしょう。

○参加者

4カ月から本を手にはしているはずなんですね。それをつなげていくには、やっぱり図書館というものがちゃんとしていないと、全然つながらないと思うんですよ。

○知事

今度、甲府駅の北側に県立図書館を造るんですが、この目玉の1つは子ども読書支援センターといいまして、子どもさんたちに本をどうやって読み聞かせをしたらいいのかとか、やり方とか、いろいろなことを研究をする。

要は各市町村図書館の子ども読書機能を強化すると。そういうセンターをつくるんですよ。だから、それが動き出すと、ますます、そういう市町村の図書館なんかも、子ども読書機能みたいなものが、だんだん充実してくると思えますけれども。

立派なものを、またそのうちにつくってもらって。

○参加者

読み聞かせの会の「耳をすませば」という会がありまして、参加させてもらっているんですが、「トトロの会」は市川のほうで中心に活動されている会で、「耳をすませば」は三珠を中心に行っているんですが、月に一度、未就学園児の読み聞かせを行なっているんですが、通常だと図書館に来ていただくのが通常なんですけど、図書館だと狭くてちょっと限られてしまうということで、三珠地区は「すすく」という支援センターが、一緒にあるので、そちらに出張する形でやらせていただいて、そちらのお母さんたちも良かったということで・・

そういう場所があるので、三珠地区は恵まれているなど。

○知事

何人ぐらいおられるんですか、そのメンバーは。

○参加者

5人だったんですが、4人になってしまい、なかなかボランティアというのは難しいです。

○知事

小さいお子さんに読み聞かせをするというのは、テクニックがあるんでしょう。

○参加者

私はまだ数年しか経ってなくて、私は本当に数年。きっかけは小学校の校長先生が読書ボランティアをお母さん方に募って、それがきっかけで、その読書ボランティアに入ったわけなんですけれども、小学校のほうでも独自にお母さん方が朝の読書の時間に読み聞かせに、行ったりしています。最近では、大塚小学校でも、上野小学校でも、そういう活動をするようになりました。3年ぐらい前から。

○知事

そうですね。まあ、しかしご苦労様なことですね。
素晴らしいことでございますね。
どうですか。

○参加者

今、2人目を妊娠中で、産婦人科というものがやはり・・・
総合病院に今かかっているんですが、子どもを見てくれる人がいないので、連れて行って、長時間待っているのが・・・
遊ぶスペースもなければ、看護婦さんが見てくれるわけでもないで、そこはやはりちょっとそういうスペースがほしいし、たぶん妊婦さんだけではなく、風邪を引いてもそうだと思うんですが、なかなか子どもが風邪を引くと連れていかれるけれども、自分が風邪を引くと行かれないので、病院に何かそういう施設というか、預けるところがあれば、たぶんもっと母親もいろいろ悪くならないうちに行けるんじゃないかなと。

○知事

ファミリーサポートセンターというものがあるわけですから・・・
あまり使いませんか。

○参加者

料金がかかるので、やっぱりちょっと・・・。

○知事

よっぽどのがなければ、子どもを連れて行ってしまいますよね。

○参加者

そういうときに市川三郷ファミリーサポートを利用してほしいですけどもね。
いろいろと市川三郷ファミリーサポートもすごく宣伝しています。

○知事

1時間でどのくらいかかるんですか。

○参加者

30分、250円です。

1時間はワンコイン500円でできるように、今回からなりました。町のほうからちょっと助成をしていただきまして。お金がかかるので・・・。

○知事

病院に行くとなると、時間が、どのくらいかかるか分かりませんものね。
大きい病院でちょっとした託児室みたいなものがあるといいですね。

○参加者

あると助かるんですけども。

○知事

東京の大きい病院はありますけれどもね。山梨県はないのかな。
中央病院ではないですかね。
看護師さん用の託児室はあるんですけどもね。
どうですか。

○参加者

今、いろいろな方のお話を聞かせていただいて、市川地区と三珠地区には、お話を聞かせていただける会があると聞きました。六郷にはないです。

それで市川の方から今度、こういう会がありますから、ぜひ参加をしてくださいというお便りを毎月いただいているんですが、実際に朝、その時間までにそこに行くことが大変で・・・。

私はまだ1人しか育てていないので、その子の都合に合わせて行動ができるからいいんですが、例えば保育園に行っている子がいると、迎えまでに帰らなければいけないとか、小学校1年生だと午前中しかいられないからというお母さんもいらっしゃるの、できれば六郷地区にもそういうものをつくっていただきたいのと、あとは健診のことで、4カ月、7カ月、13カ月と、小さなうちから町のほうで健診をしてくださっているんですが、六郷地区ではないんです。

ミルクのセットとか、着替えとか、オムツとか大きな荷物を持って、市川地区か三珠地区まで行かなければならなくて、同じ町内だからと言われるんですが、やっぱり20分、30分の移動は1人で連れて行くのは大変で、2人目とかになると、上の子も下の子も連れてというお母さんもいるので、できれば回数を増やすのは大変だと思いますので、六郷地区でも健診をしていただければと思います。

○知事

一瀬課長さん、どうでしょうか。

○いきいき健康課長

やっぱり子どもの数のバランスが取れないということがあって・・・

子どもさんの数が六郷地区はかなり少ないですよ。

小児科医が少ないということがあって、小児科医を町外からお願いしているので、その人数に限りがあって、それを組み立てていくということが・・・

六郷までは来れないとか、いろいろな条件があって、お母さん方にちょっとご不便をかけているような状況があるんですね。小児科医自体が甲府から六郷までは行けないとか、いろいろなそういう条件が・・・

先ほども小児科医がいないということがあって・・・

○知事

さっきの話ですけれども、市川三郷町は小児科の診療所はなくなってしまったんですか。

○いきいき健康課長

ないです。

○知事

ないんですか。それも困るね。そうですか。

○参加者

やっぱり、2歳とか3歳とか、大きくなってからの健診は別に遠くても、市川や三珠に行くのは、そんなに大変ではないんですが、4カ月とか小さい、例えば2人目だったら、まだ勝手が分かるのでいいんですが、初めてのお母さんが、1人目を産んだお母さんが4カ月健診に子どもを車に乗せ、山を1つ越え、市川まで行かなければいけないとか、意外と近いじゃんと思っても、結構大変だったり。

○知事

20分かそこらではないかと言っても、やっぱりちょっとそれは心理的なものもありますよね。そうですか。

旦那さんに仕事を休んでもらってというわけにもいかないですものね。有給休暇を取ってとか。忙しいと、そうはいきませんよね。

○参加者

でもお父さんとか、おじいちゃん、おばあちゃんが連れてきてくれている人とかはいらっしゃる・・・。

○知事

それはいるでしょうね。おじいさん、おばあさんがね。一緒に住んでいけばね。

○参加者

でも、これからもまだ続いていくお話なので、私たち1回きりで終わりではなくて、まだまだ2人目が産まれたときに、これからも六郷でもきっと子どもが産まれていくので、意外ときれいな施設が六郷にはあるので、できればそこでやっていただければ。

○知事

こういう健康センターみたいなものがあるわけですね。

○参加者

ふれあいセンターが・・・

今、そこで私たちは毎週活動をさせてもらっているんですが。

○知事

何という活動をやっているんですか。

○参加者

「なかよしキッズ」です。

お母さんたちが自主的にやっているものなので、意外とこじんまりとした感じがあるんですが。

○知事

やっぱりそういう健康の問題が一番心配ですよ。

小児科のお医者さんが増えないと、やっぱりうまくないですね。

山梨県全体でも小児科のお医者さんというのは今、100人もいないんじゃないでしょうか。夜とか休日の、通常の小児科の診療所が閉まっているときの、救急センターみたいなものがありますでしょう。甲府と今度は富士吉田にもつくったんですが、これはもう小児科のお医者さんが、全県のお医者さんが交代で土日とか夜間に出てもらって、そしてやっているんです。これもいっぱい、いっぱいですね。ほとんど全員の方々が参加してやってくれているんですが。ちょっと足りないですよ、小児科のお医者さんが。

もうちょっと待っていただければ、増えると思いますが、そうすると間に合わなくなってしまう・・・。

○参加者

私は、「いちかわ親子わいわいネット」という子育てサークルをしていて、小さなお子さんたちと一緒に学童保育で使われている児童館の空き時間を利用して、若いお母さま方と、あと子どもたちの遊び場を提供しているというサークルなんです。

そちらのほうで、本当にいつもは出てくださるお母さま方が楽しく、精神的にもカウンセラーの先生をお呼びして、お話を聞いたりですとか、子育て相談ができたり、あと昨日もリズム体操とかヨガとかという体のほうもリフレッシュするような場を提供しているんですけれども、どうしても講師の先生をお呼びするというので、そのために1回300円とか400円とかを徴収しなければいけないという・・・

それで、その会をやはり1年間10回とかになると何千円のお金が出てしまうので、かなり町のほうからも補助もいただいていますけれども、ご負担にならないように、もっと積極的に町のほうとか、いろいろなところから助成していただければ、とてもありがたいんですけれども・・・。

○知事

1回300円ね、しょうがないでしょうね、それをいただくのは、どうしてもね。

○参加者

先生の優しい手引きとかでまた元気になって、お母さんたちが家庭に帰っていくという、とてもいい活動ができて、楽しくやって・・・

私自身が一番下がもう中学生なんですけど、若いお母さんたちからまた力をいただいて・・・家に帰ると、反抗期の娘と戦わなければいけませんので・・・

昔はかわいかったなということを思い出しまして・・・

○知事

中学生ですか。

○参加者

私は大学・高校・中学とおりました。

○知事

いいですね、バラエティーに富んでいてね、賑やかでいい。

○参加者

だいぶ上のお母さま方ですけれども、甲府発のあずさの始発時間が1時間早ければ、下宿をさせずに、甲府からでも通わせられるが、大学の1限に間に合わないがために、高い下宿代を払い、仕送りをして、汲々の生活を迫られているんですけれども・・・

○知事

大学生の子どもさんは、八王子あたりの大学ですか。

○参加者

うちは江東区のほうまで行っていますので、それは無理なんですけれども・・・ほかの八王子あたりの西東京ですと・・・。

○知事

そういう人も確かにいるんですよ。

○参加者

車で八王子まで通っているなんていうお子さんもいらっしゃいますけれども・・・

○知事

朝、一番早いのは7時7、8分ですよ、あれが1時間早いといいですけれどもね。

○参加者

そうですね。今のような話を耳にしていますので、知事さんの頭の片隅にでもおいていただければ、助かるのですが・・・

○知事

それはJR東日本というところへね、毎年、要望しているんですよ。

○参加者

どんどん若者が吸い取られていき、企業の少ない山梨へ帰ってきてくれるだろうかという、子育てのゴールインは子どもの結婚か就職か、そのくらいだと思いますけれども、本当に引き戻したいのが山々ですね。

ちょっとすみません、上の子の話になって・・・。

○参加者

小さいお子さんばかりではなく、私も高2と中2の2人なので、若いお母さんたちと今の悩みが違うと思うんですよ。

若いお母さま方はいつごろから働こうとか考えていらしたのかなとかと、そのとき、どこに子どもを預けるとか、そういう不安とかあるんでしょうね。

○知事

やっぱりみんな働くことを考えているんですか。

専業主婦で、もうずっと育てる・・・

○参加者

母親はずっと家にいたほうが・・・ やっぱり子どもには絶対それがいいと思う

ので、子育てしてお金がないとか、学費どうしようとかという問題の根本は、旦那の給料、切実な悩みです。

○知事

子ども手当が1万3千円、6月に入るからいいでしょう。

○参加者

現行の支給の方法だと、子どもの費用以外に、生活費だったりとかに出してしまうという方も結構多いと思うんですよね。私はまだ1人しかいないので、一応子どものためにもって、今までいただいているものは全部積み立てはしているんですが、これから先、額が増えるとかという話もあるじゃないですか。その中で授業料だったりとか、保育料、給食費の滞納問題がありますよね。私の中では、払わないのに、どうして給食を食べているのと、大人の意見としてはそうだけれども、それが実際にできないのであれば、子育ての手当の中から差し引いた、残ったお金があるのであれば、そのお金だけを支給するような、一律に未納・滞納がないような形に何とかできないのかなと。

○知事

天引きができるようにしてもらいたいということは、市町村長の皆さんが言っているんですよね。3カ月ぐらい前、鳩山総理が来たときに、市町村会代表の人がそれを言っていましたよ。そうしたら真剣に検討しますと言っていました。

どうなっちゃったかな。来年ぐらい、何か考えるようなことを言っていましたけれどもね。

○参加者

支給されるお金があるのであれば、滞納されやすいものから差し引いてという形にしてもらったほうが、みんな納得がいくんじゃないかなと思うんですが。

○知事

そうですね。ほかのことに使う、本当に払うべきものを払わないでね。

本当に子どものために使うかということ、そうではなくて、ほかのことに使ったりしますからね。

しかし、そうはいつでも1万3千円くればありがたいでしょう。

○参加者

助かりますね。

○知事

助かるは助かるよね。それでも、あまりうれしそうな顔はしていない・・・
どうしたんだろう。

○参加者

38万円の控除がなくなるとか、そういう話を聞くと・・・

○知事

それはありますね。やっぱり自分で計算するんでしょうか、皆さん。

○参加者

私は自営なので、まだ手書きで計算しているので、38万円、うちは子ども2人で旦那の母も扶養しているから、子ども2人分なくなるだけでも、ワートとか思っ

ていて、今年はまだ1万3千円子ども手当がもらえるからいいけど、その38万円損になっているし、だったら子ども手当はいらぬから、控除は控除で38万円あったほうが助かる。

○知事

38万円、控除が全くなくなるわけではないでしょう。でも、所得の高い人はそういうことがあるかもしれないですよ。

○参加者

保育料とかも収入だけで見るといわれたんだけど、それだと出るほうも本当にいっぱい出ていくので、自営業は本当に痛いんですよ。

○知事

それはそうですね。

確かにね。

○参加者

だから子どもをずっと見たいという気持ちはあるんですが、やっぱりみんな幼稚園とか小学校のお友達のお母さんとかも、子どもを自分でみたいけれども、旦那さんの給料だけではやっていけないからといって、結局、やっぱりパートに出るお母さんがとても多くて、山梨県はまだまだ男女共同参画も言っているだけで、大きい企業にしても、子どもを産んだら続けられるところは、すごく少ないと思いますし、私は県がまず事業仕分けをしていただいて、国が今、公益法人の事業仕分けをしているように、県も県の公益法人の事業仕分けをしていただいて、無駄を全部省いていただいて、県のOBの天下りの人の雇用を、働きたいお母さんたちのところに充てれば、何十人ものお母さんが働くことができるんじゃないかと、昨日の夜から思っていました。

○知事

だけど山梨県だけではなく、どこの都道府県も市町村も同じなんですが、一応、外郭団体みたいなものはあるんですが、そして天下りという、言うには言ってもしょうがないんですが、県庁のOBも60歳で退職して、そのあと外郭団体などに行く方は何人かおられますけれども、国の天下りとは桁が違うというか、規模が違うんですよ。

県を退職して、外の団体へ勤めると、給料なんかすごく安くなるんですよ。月30万円ぐらいに・・・

国の場合は、年間収入が1千万とか2千万円ですか・・・ だから国と県では天下りというのは、ずいぶん違うんですよ。

○参加者

でも県と一般の家庭はまた違うと思う。

一般の家庭で30万円と言われたら、女の人が30万円なんて、とてもじゃないし、やっぱり一番ベースは、一般の家庭のことを考えて、また女性の雇用をもう少し、再度、働きやすいようにしていただかないと、やっぱり人口も流出していくと思いますし、みんないっぱい、いっぱいストレスもたまっていて、結局、山梨には残りたくないというようになってしまう。

お医者さんも山梨大学を出て、山梨に残ってくださればいいんですが、今みんな東京とか大都市へみんな出ていってしまっているのが現状だと思うんです。山梨にもっと魅力を、分かる魅力を引き出していただけるといいなと思います。

○知事

お医者さんの研修制度が数年前から変わりました、自分で選んでどこへでも行ける、自分の好きなところに行けるようになったものですから、それまでは大学が決めていたんですよ。そんなわけだから、みんなやっぱり都会のいいところへ行きますよね。

それで、どこの県もみんな困ったんだけど、山梨県もお医者さんになったら、山梨県で勤めるんだよという約束をしてくれた医学生に奨学金を支給しているんですよ。山梨県の場合には全国でもその奨学金の支給人数が、全国でもかなり多いんですよ。

だから、将来、山梨で勤めますという人が非常に多いんですよ。それから山梨大学の医学部というのは、定員をどんどん増やしていますので、だんだんお医者さん不足も解消していくというように思いますけれども・・・

例えば子どもを育てながら、働くときに、何が一番求められる。

保育所のサービスですか。

○参加者

市川三郷はたぶん待機児童もそんなに問題にもなっていないと思いますし、やはり企業とか団体側の、例えば短時間労働だとか、東京とかの企業というのは、企業の中に託児所があって、安心して預けられて、しかも短時間労働ができて、病気のときはそんなことに気を使わずにお休みできるとか、女性が、そういうことが認められていると思うんです。山梨はすごく少ないと思うんですね。山梨で大きいといわれている企業も、ずっと仕事を続けている人がすごく少ないと聞くので・・・

○知事

短時間労働、例えば3時間なら3時間、午前中だけとか。

○参加者

そうですね。

○知事

今あれですかね、女性の皆さんがアルバイト的に勤めるというのは、スーパーマーケットみたいなところが多いわけですか。認めませんかね。

○参加者

そういうところは認めます。

○知事

時間当たりで、それはやるでしょう。

○参加者

企業側の努力として、もう少し福利厚生だったり、年金もちゃんと入ってくれるとか、今だけではなくて、長く働いたら、それなりに働いただけのメリットももらえるようでない、モチベーションも上がらないですし、再就職、お母さん

自身はやっぱり生き生きとやりたい仕事をしているという姿を見せるというのが、子育てですごく大事なことだと思うんです。

○知事

あなたも勤めていたのに、泣く泣く辞めたんですか。

○参加者

私、実はちょっと外郭団体にいたので、その県の嫌なところをちょっと見てしまっただけ。

○知事

県庁の。

○参加者

ちょっと・・・。

○知事

何という団体かは言わなくてもいいですが、どのようなところが嫌だったんですか。

○参加者

私は育児休暇を取って、復帰する半月前に、あと3年で辞めてくれといわれて、君のお給料をあげられないと言われたんですが、それを言われたのは県のOBで、その方は私の3倍の年収を1年間でもらっていたんです。その方は3年いけば、私9年勤められたんです。でも、それが認められなくて、上司は県のOBなので。労働組合もないので、何も訴えることができなくて、泣く泣く辞めたんですが、そういういっぱい無駄があると思います。もちろんOBでないと、できない仕事もあると思うんですが、女の人だってできる仕事も、まだ席がたくさん、OBの席があるって思います。

○知事

昔の話ではないですよ。

○参加者

2年前。

○知事

2年前ね。

そういうことがあるんですね。それはうまくないですよ。経理が厳しかったんでしょうかね。

○参加者

今、必要としている人の雇用に回せる部分がすごくあるんじゃないかと思いません。

○知事

それはそうかもしれませんね。

どうですか、あとは。そういうような話はありませんか。

○参加者

皆さん、本当にご両親が近くにいて、同居というところもあると思うんですが、おじいちゃん、おばあちゃんのお力もぜひ借りて子育てしてほしいなと思うんで

すよ。車で迎えに来られるおじいちゃん、おばあちゃんもいますし、ご自分が連れて行ってという形も取れるでしょうし、同居でいながらおじいちゃん、おばあちゃんに預けないというお若い方もいるようなので、ぜひやっぱりサポートさんのお力も大事でしょうけれども、身内の愛情にはかなわないと思うんですよね。

やはり、おじいちゃん、おばあちゃんが近くにおいでなら、力を借りて、ぜひ一緒に愛情を注げるような子育てをしてあげてほしいなど、お母さん方にもお伝えしたい。

○知事

あまりお姑さんの手を借りたくないというように、みんな思うんでしょうかね。人によるということでしょうかね。

○参加者

方針が違ったり・・・だから特に小さいときなんかは、こっちはチョコをあげては困る、あめをあげたら困るのだけれども、お母さんは泣かせるのは困るからと。

○知事

つつい甘やかせてしまうと。

○参加者

そうです。だから、こっちも預けたくないという、こういうことが違うとね。

○知事

だから私の育児の方針はこうなんだと。お母さん、こういうことは困りますよと。

しかし、確かにそういうことを言うことがありますね。おじいさん、おばあさんが、やっぱり育児は、昔の育児の感覚でやるものだから、やっぱり今の育児というのは随分また違いますからね。それをまず勉強して。

○参加者

話し合いの結果で、ぜひ愛情を注ぐ面ではおじいちゃん、おばあちゃんの力も借りていただきたいと思います。

○知事

おっしゃるとおりですね。

○参加者

もしできるのならば、そういうおじいちゃん、おばあちゃんを対象に孫が産まれたときの講座みたいなものがあれば。でも本当に必要だと思っているんですよ。なんか昔と全然違うものですから・・・。

○参加者

乳児健診とかにもどんどん来てもらったりとか。

○参加者

何かそういうことがあれば、もしお孫さんが産まれるおじいちゃん、おばあちゃんのお宅に、今はこういう感じで子育てするのが主流ですみたいな感じなものを・・・なかなかちょっと旦那の親に、それは今は違うんですよとかは言えないですし・・・

○知事

「じじ・ばば講座」というのをやらなければね。
勉強しなければ駄目ですね。

○参加者

結構違いますよね。

○知事

しかし、それなんかはやっているところがあるようなことを聞いたことがあります、それは大事なこともかもしれないですね。

○参加者

そうしたら、もうちょっとご希望どおりに、チョコをあげるとかそういうことは、そこまではたぶんおじいちゃん、おばあちゃんも他人に言われてしょうがないと、やめることはできなくても、何か月未満の子には、こういうものを与えてはいけませんとか、虫歯になるからとか、そういう意味ではなくて、親は良くても、自分の、もうちょっと今で言うと60とか70歳位のおじいちゃん、おばあちゃんたちが子育てしたときと、だいぶ、与えていいものが全然違ったりとか、していいことが違ったりとか、何かそれで育ったから大丈夫だとか言われると、何も言えなくなってしまうし、そういう面で安心して、おじいちゃん、おばあちゃんに預けられるような何か工夫を・・・

嫁にはできない、何かそういうところを助けていただくと、もうちょっとおじいちゃん、おばあちゃんにも預けられるかもしれないですけども。

○参加者

うちは主人のお父さんと同居しているんですが、母は甲府にいて、60過ぎているんですが、まだお勤めをしているんですよ。うちの主人のお父さんは、もう75歳を超えていて、一緒に住んでいるので、子どもを見てていただきたいんですが、逆に車の運転もできない、心臓があおってしまって外に出られないとか、見ててもらいたいけれども、見ててもらえないということもある。

やっぱり身内に頼りたくても、頼れないということが・・・。

○知事

そうですね。75歳過ぎますと、後期高齢者ですからね。

○参加者

たぶんおじいちゃん、おばあちゃんの講座があっても、デイサービスにも行ってくれないだろうなというようなおじいちゃんなので、きっとあったとしても参加はしてもらえないだろうなという感じも・・・昔の人間だとやっぱりどうしても、そんな人に今さら教えてもらうとかという、何かプライドもあるのかなとかあるので、ちょっとそれは人にもよる。みんな一律で教えてもらえればいいんですが・・・

○参加者

今、少子化ですよ。でも何か排卵検査薬とかもすごく買いづらい。

どこの薬局でも買えるような感じではないですよ。値段もすごい高いんですよ。私は高いと思うんですが・・・もうちょっと値段も手軽で買いやすくなれば、

結構いいと思うんですが・・・子どもがほしくてもできない人は、すごくたくさんいると思うんですよ。なので、もうちょっと考えてほしい。

○知事

排卵検査薬というのは、病院ではなくて買えるんですか。

○参加者

薬局でも、一部だと思いますが。

○知事

まだ一部ですか、買えるのが。

○参加者

はい。

○知事

病院もカルテがないと買えないでしょう。

○参加者

私は買ってないですが、やっぱり2人目とか、みんな1人目を考えている人のことを考えると、買いにくいものが、なおさら買いにくくなっている。

○知事

いくら位するんですか。

○参加者

7個入りで4千円ぐらいだと思うんですよ。
そうすると1カ月、使い切って終わりとか。

○知事

そうですか。

○参加者

今の不妊治療って、病院が不妊という診断をされた人しか受けられないということですよ。そうではなくて、結婚して3年経ってもできないとか、2人目不妊ということ結構聞くんです。なので、2人目との間隔が5年以上あいた人とか、もうちょっと相談できる場所とかがあれば、今、子どもがほしいけれども、不妊症ではないという人もいると思うんですよ。

○知事

助産師さんが一番いいんですけどもね、相談するにはね。助産師さんが大勢いると、ちょっとした病院に、今は助産師外来なんてあって、これがだんだん広がっていきますよ。お医者さんの治療行為まではできないけれども、いろいろな相談には応じられる。

○参加者

友達とかでも不妊治療ですごく頑張っている友達とかに、いろいろ話を聞くと、やっぱりなかなかできないし、お金もかかってくると、やっぱり難しいです。なので、もうちょっとお金の面とか、地域とかでも、もうちょっと何か心遣いがあったら、子どもが増えるのではないかと思いますけれども。

○知事

不妊治療は今もちろん保険はきくんでしょ。

○参加者

きかないと思います。

○知事

助成はしている、保険はきかないんですか。

○参加者

きかないです。20万円まで。

○参加者

私の姉がやはり不妊で今回2人目が産まれたんですが、最初の子のときから東京のほうに受診しに行って、最初の子のときには4年前だったので、助成金とかがなかったんですが、今回、甲府でも市と県で助成をいただけたということで、すごく喜んでいました。

大変助かったという話をしていたんですが、かかる額が全然違うので、1回で成功すればいいんですが、やっぱり2回、3回になってくると、どうしてもその注射針1本が最初は10何万円とかして、2回目以降から金額が徐々に下がってくるとか、病院でもそういうふうにはしてくれているようなんですが、やっぱり1回で済むかどうかというのは、やっぱり分からないので、できればもうちょっと、かかった費用に対しての一律の助成でもなくて、何%とか、パーセンテージの助成があったら、もっと回数をチャレンジできたりとかするのかなとは思いますが・・・

○知事

なにかありますか。

○参加者

今、中部横断道が始まって、私は団地に住んでいるんですが、その脇も今すごい工事をしていて、でもすごい便利になると分かっているので・・・
それまでは子どもが道路の真ん中を三輪車で走っていても、全然平和な町だったのに・・・でも息子は大喜びですけれども・・・。

○知事

大喜びですか。

○参加者

重機が見れて・・・

でも、やっぱり不安な部分もあって、大きなものが通ったり、排ガスとかの影響もやっぱり怖いので。

○知事

一時のことですからね。できてしまえばね。

○参加者

便利になるのはいいんですが・・・ただの通過点ではなくて、やっぱりちょっと地域に少しでも活気ができるように、何か雇用とかも、私たちが働きに行こうとすると、やっぱりすごい遠くまで働きにいかなければならないので、あれが通ってくると・・・

○知事

昔は六郷の町なんていうのは賑やかでね、私たちが若いころは、はんこが当時からもすごかったですからね。

○参加者

はんこの内職とかで結構、家にこもっている人が多い感じの町なので。

○知事

今でも日本で5本の指に入るはんこの町だけれどもね。ちょっと昔と違いますね、随分ね。そうですか。

○参加者

今、県道の歩道をつくっているんですが、うちの前はまだというか、やるのかやらないのか分からないんですけれども。

○知事

どのへんですか。

○参加者

市川大門線というところですね。それで歩道をつくっているんですよ。歩道と道路の間の縁石というんですか、すごい高くて、すごい幅を取っていて、もともと一緒に手をつないで歩くのにもはばかれる、大人が車道のほうにちょっと出て、子ども2人とかをつないで。

○知事

歩道が狭いにもかかわらず。

○参加者

きれいにしてもらうのはいいんですが、逆に何か邪魔みたいな。

○知事

狭い歩道に高い縁石を・・・

○参加者

うちの家の前が、ちょっと鉄格子が入っているとか、ちょっとガタガタしていたので、何か修理の人が入りますと行って入ったんですが、即席で直していったんですが、余計にうるさくなってしまって、町のほうに電話したら、県道なので県ですと言われて、でも直しに来たのは町の業者の方みたいですけれども、ちゃんときれいに、前よりも本当によくなって、直していかれたんですけれども、前の業者の名前も聞いておけばよかったんですが、1日でもうできますからなんて言って、即席で直していったんだけど、逆にうるさくなってしまって・・・

○知事

何がうるさくなったんですか。

○参加者

家の前の歩道のところに鉄格子がガタガタいっていたことが気になって、直してくれるなら、ではお願いしますという形で。

○知事

車が走るときに、ゴトゴト音がするということですか。

○参加者

車の出し入れですね。下が駐車場になっているので。そういう出し入れのとき

に、ガタンガタンというのが気になっていたもので、では直してもらえるのならお願いしますとって、直していったと思ったら、もっとさらにうるさくなって、それで町に電話をしたら、県道なので、では県のほうに連絡しておきますとって、ここ1カ月、修理に来なかったもので、そのままだったので、また町に言ったら、今度は町の人がちゃんと見に来てくれて、町がやってくれたんですが、ちょっとその対応が・・・どこの業者なのかわからなかったもので、こっちも悪いんですが、何か直していったんだか、その場しのぎの何かでやっていったという形で。

○知事

県も市町村もそうですけれども、行政がおかしければ、それはもうしつこいぐらい言ったほうがいいですね。そんなことを言っただけじゃ悪くないかとか、そんなことは全く遠慮する必要はなくて、そういうことを言わなければ駄目なんですよね。言わなければ行政はよくなりませんよね。県民や市民が何かおかしいときには厳しく言わないと、行政というのはよくなりませんよ。

だから、それはぜひ、そういうときにはやっぱり町よりも県に言ってもらいたいですね。県の事務所がありますので。

それはともかくとして、今の歩道の狭いところというのは、どのへんですか。

○参加者

今も工事中なので。

○知事

甲府市川大門線ですよ。上野のね、あの通りですか。

あの県道で今、歩道を整備しているということですか。

○参加者

そうですね、一応、整備、去年、区間を少しずつ邪魔にならないようにということなんでしょうね。

○知事

あの縁石というものはいるものですかね、どうでしょう。やっぱりあったほうがいいですか。

○参加者

人とすれ違うことがままならなくて・・・

○知事

あの縁石なんかも、見苦しいから取っただけだと私は言ったんですが、そうしたら一応、歩道と車道は分けないと、何かあったときには危ないですよ。もし事故が起きたら・・・。

○参加者

逆にそれに突っかって、こけたり。

○知事

突っかってね、そういう心配もあるしね。けども、これはもうちゃんと分けておかないと危ないですよ。もし事故でも起こったら、知事さん、責任を取りますかなんて言われてね、そういうわけにもいかないですしね、けど歩道が広ければいいけれどね、狭い歩道にね・・・。

狭い歩道の縁石なんかは、あまりつくるのはよくないかもしれないですね。
今のように何でもいいんですが、ほかにありますか。

○参加者

「ファミリーサポート市川三郷」からですが、ファミリーサポートに申し込みをすると、お願いしたいお母さんと子どもさんと、あとお預かりする方たちと顔合わせということをするんですね。

そうすると、利用がなくても街中で会ったりするときには声掛けをしたりとかということで、地域の中でそういう子どもたちをお互いに見ていかれるというか、育つことを見ていかれるということがあって、すごくいいと思うんですね。

今、県内にも10何個かあるんですが、生活も今多様化しているので、いろいろなサポートがあると思うんですね。地域性もあるのであれなんですけど、この間、サポートの中で話し合ったときに、やっぱり県内全体のサポートセンターのネットワークみたいなものをつくって行って、県のほうで一つ柱になっていただいて情報交換や研修などをしていただきたい。

今も子育ての研修を受けているんですが、サポーターの方たちは、子育て中に聞けばよかったなというような講演もあり、あのころ聞けなくて残念だったなという意見もあったりするので、そういうものをお母さんたちにも聞かせてあげたいとも思ったりするので、県のほうで音頭を取っていただいて、ネットワークづくりに力を貸していただければ・・・

○知事

ネットワークは、今はないんですか。

○参加者

今はないですね。

○児童家庭課長

立ち上げました。

○知事

立ち上げたんですか。

○児童家庭課長

5月に立ち上げたんですが、今のところ9団体ですので、それをどんどん広げていきたい。

ぜひそちらのほうに加わっていただきたいと思います。

○参加者

ファミリーサポートセンターというものを、今、女性労働協会と21世紀財団と、2つのところでやっているんですね。サポートセンターをつくるときに、女性労働協会のほうに入って、そっちのほうからいろいろなアドバイスをいただいたりとか、講習を受けたりとかとありますし、21世紀財団のほうに入って、そっちのほうから同じようなことをしてもらったりとかというルートが2つあるので、そこのところが、やり方が違うので、ではこっちに入っていたサポートセンターはこんな形で、こっちはこんな形でみたいになってしまうところもあったりするので、何か県のほうで一本、柱を立てて、やってもらいたいなど。

○知事

何か上部団体みたいなものがあるわけですね。

そこで、それに入っていると、そこからいろいろ研修したり・・・

○参加者

そうですね。研修するときにも、例えば女性労働協会で行っているファミリーサポートセンターというやり方があるって、そこで厚い本を送ってくるんですよね。その本に基づいて、お預かりしたり、講習を受けたりと、各地区で計画を立てて、それをクリアして、それを労働協会のほうへ返すんですね。そうすると今度、女性労働協会のほうの認定された会員がいますよということで返ってくるんです。

市川三郷の場合はそんなことがあるんですが、それではちょっとやりづらいということで、町長さんがいろいろ計画してくださった町のものをつクリアすると、町長のサポーターですという認定のものをくれるんですね。

○知事

なるほどね。それでいいですよ。

○参加者

だから何か、もう立ち上がったものがあれば、またそのところで情報交換とか、いろいろなことを活発にやっていただけたらなと思います。

○児童家庭課長

それぞれの団体で活動が個性的なんですよ。それを画一化すると、やっぱり不満が出てしまいますので。

○参加者

地域性があるので・・・

○児童家庭課長

ご自分たちの独自の活動は生かしていただいて、こんなふうな活動をしていますよという、そういう情報だけを受け入れていただいて、もし受け入れてそういうものがあると思ったら、そういうものを取り入れてやっていただけるように、そんなようなことで進めていければと思いますので、ぜひよろしくお願ひします。

○参加者

地域の中で子育てをお互いに助け合っているということは、すごくいい姿勢だと思います。

○司会

お話は尽きませんが、予定の時間をだいぶ経過してしまいましたので、知事のほうから今日の感想も含めましてお願ひします。

○知事

皆さん、いろいろとありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただいて、大変に参考になりました。

今日いただいたお話、どの程度、改善できるか、今の段階では申し上げられませんが、できるだけのことをしたいと。

今日の皆さんのいろいろな提案を参考にして、子育てをしているお母さん方にとって、より子育てのやりやすい山梨県にするように努力していきますから、ま

たいろいろとご意見があれば、ぜひ聞かせていただきたいと思います。

それぞれ本当にご苦労があって大変だけれども、頑張ってください。

お子さん方をしっかりと育てて、同時にまた、人生が実りのあるものになるように頑張っていたきたいと思います。

どうも皆さん、今日はありがとうございました。

○司会

それでは以上をもちまして、ひざづめ談議を終了させていただきます。